

被団協ノーベル平和賞受賞のインパクト

◎◎ 大軍拡ストップ・平和の準備、核完全廃絶への狼煙へ

赤井純治

10月11日、ビッグニュースが飛び込んできました
被団協がノーベル平和賞を受賞。

被団協の皆さん、ノーベル平和賞受賞おめでとうございます
ざいます、心からのお祝いを述べたいと思います。自
らの体験に基づいて、核兵器の非人道性と核廃絶を長
年訴えて来られた努力は絶大なもので、これが核兵器
禁止条約にまでつながりました。被爆者の声、これと
連帯した日本の原水爆禁止運動、これまで核を使用さ
せて来なかった抑止力であったことは明白です。

私は、リアルタイムで、このノーベル平和賞受賞の
様子をテレビで見えていました。その瞬間、よかった、
万歳！ という思いでした。それと共に少ししてよく
考えると、これは至極当然なこと、どの団体よりも先

に、もっと早くてもよかったとの思いも。今の核をめ
ぐる情勢、グテーレス国連事務総長も、中満泉軍縮担
当上級代表も、8月私も参加した広島での世界大会で
の各国代表も、被爆地広島・長崎の市長・県知事らも
繰り返し今の核使用への危機感、核戦争の恐れを強く
発信しておられる中で、ノーベル平和賞はこの危険へ
の緊急の警告の意味も持っています。核戦争の危機感
を、市民がもっともつと、声を上げる必要があります。

また今回のノーベル平和賞は、核共有・非核3原則
を壊すことを持論としている石破首相や維新の会への
痛烈な批判です。つまり、これは、今の軍拡の流れ
をストップせよ、戦争準備でなく、平和の準備を、と
いうメッセージにもなっています。

新潟の被団協、新友会の西山謙介会長、また大学で被爆体験をこれまで3、4千人には語ってくださった山内悦子さんにも私は祝意を伝え、お祝いしました。同時に、このノーベル平和賞は私たちに、このメッセージをどう受け止めるか、を鋭く問うています。つまり、現政府が、核兵器禁止条約に背を向けるならば、核廃絶を目指し・核禁止条約を批准する新たな政府をつくるべしです。それは、私たち主権者の責務。

核共有を言っている政党、2つあります。核共有とはどう言うことか。大雑把に言えば、米国の核兵器を日本国内に置いておく。いざという時、どうしても核を使いたいと考えた時、その核を米国の許可を得て自衛隊が運び、投下する、というもので、非核3原則（作らず、持たず、持ち込ませず）を放棄するもの、被爆国日本が核を使うことに関わる、とんでもないことで、被爆者の思いをこれほど逆撫ですることはありません。また、核抑止力論が問われます。

石破首相は、党首討論で、ウクライナがなぜ攻められたかと問い、核を持つてなかった、核を放棄した（ブダペスト覚書）からだとか核抑止論を主張します。ならば、全世界の国が全て核を持つべきだということ

になります。これはいま核兵器禁止条約が発効している現状、全世界の多数の国の意向・趨勢と真逆！誤認・誤情報で何回となく核が発射されそうになったり、誤って発射の事故（沖縄）、落下したりしたことも複数回ある、これらの危険の上に安全は絶対にあり得ません。人類の破滅が必至です。シウルツ元アメリカ国務長官は「核抑止とはいざという時には使えなければ抑止にならない、それでは、数十万、数百万の市民がいるところに核を落とせるか。文明国の指導者なら、そんなことはできない。落とせないのだったら、抑止にならない」と言っています。..あえて、それでも核使用というなら、狂気の沙汰です。文明国の人間ではありえない、猿以下、獣（けもの）のレベルでしょう。..これが核の非人道性と言うことです。日本の政治家がそうあつてはならないはず。あるいは、すでに人道に外れた野獣以下になっっているのではないかと指摘したい。

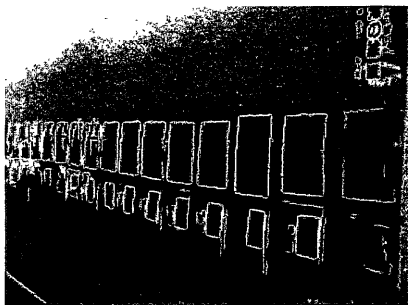
いまメディアが権力に付度し、きちんと真実を報道しない状況があります。この状況では、大量宣伝と大量対話しかないというのが私の持論です。これを、私はさまざまな場で繰り返し言っています。そして、市

民がもつともつと賢くならなければ、平和は守れません。この大量宣伝と大量対話はいま実施中の、被爆80周年に向けての、非核日本全国キャンペーンそのものです。キャンペーンは核禁条約参加をめざし、被爆の実相を広めると共に、政府に禁止条約参加・批准を求める署名を飛躍的に伸ばそうとしています。原水禁運動の原点は署名…1956年被団協ができることにつながる1954年ビキニ二事件を契機とした3200万の署名を集めた初心。…これに、私もかえりたいと思いいま署名を進めています。また、一人で平和行進を始めた、西本敦さんの精神を！、とも思っています。今、百人、千人、万人の西本敦が必要とされていると思います、都知事選で言われた一人街宣にも倣い、一人署名、をやっています。少しピエロになる覚悟も入りますが、これが勇気です。個人的には3000署名を目標として、いま905。いつでも、どこでも、誰にでも署名、という構えです。

今、訴えている署名、全体で300万をこえて集まっています。これを来年には最低1000万以上にしたい、国民全体の確固とした世論としたい、と訴えています。署名一筆になんの意味があるか、あるいは投票

に行っても自分一人の投票がどんな意味があるのか、と考える人も、特に若い人の中で多いのではないかと感じます。これは間違っていて、民主主義の危機につながります。民主的な権利を軽視することは大変に危険な状況です。ファシズムに向かう、戦争に向かう状況です。一人一票、この持つ意味をよく考えてほしいと思います。一人の思いの積み重ねがスーパースーパーパワーになります、現状を変える力になることを。

今回のノーベル平和賞報道の時、テレビで、高校生平和大使が同席していました、13日のニュースでは



高校生1万人署名を報道、また学生・高校生平和ゼミナールの活動もあります。被爆者の方が高齢になられ、若い人が後を継がないと続かない状況が少し広まりつつあります。

また、高校生の被爆の絵がいま全国的に注目されています。これは、若

の平和展示関係2枚、県民会館での平和のための戦争展、8月6日から10日の新潟平和の波行動。一つ、最初のチラシに「新潟市は準被爆都市」と書いたのですが、新潟市当局から、準被爆都市という言葉を削れと言われたこと。市役所内で配るチラシとしては認められない、と。ここは妥協して、逆にそういうことで市が公認ならと、町内会・自治会長に申し入れ、10ヶ所程の自治会で、回覧板配布できました。来年はもっと増やしたいと思います。ともあれ、市役所の1フロアで、新潟と原爆特別展を今年初めて開催できたこと、これは大きな一歩前進です。

またもう一つ。被団協ノーベル平和賞受賞にあたり、改めて、大学からの非核平和の発信を訴える課題があることに思いが至りました。つまり、新潟大学は、非核平和宣言をおこなった全国5大学のうちのひとつという立場から、心からの祝意を表するということとともに、改めて今、大学からの平和の発信が重要であることを訴えるのではないかと。

いま大学・学術をめぐる、戦争準備に巻き込まれるというひどい状況が展開しています。戦前の歴史に

比較してみれば、いま相当なところまで行っていると思います。これに、待ったをかけるのが、今回のノーベル平和賞にあるのでは、と思いついたところ。

新潟大学非核平和宣言では、核兵器の完全禁止をまず謳う。かつて広島・長崎からのアピール署名では新潟大職員組合を中心に3・5万の署名を集め核兵器禁止を訴えてきた経験も。今の情勢、グテーレス国連事務総長、中満泉軍縮担当をはじめ核使用・核戦争への危機感が言われており、受賞はこの危険への緊急の警告の意味も持ちます。

さらに宣言では、軍学共同に強い懸念を示し、大学の教育・研究・医療は、平和と人間の尊厳を守り、社会の発展に寄与すべきで、いかなる軍事関係者との共同研究はしない、そこからの研究資金の受入れはしない、またその機関に属する者の教育は行わない、ことを明言しています。今、軍学共同が、日本の大学へ浸透しつつある状況を、大変懸念しますし、大学は本来のあるべき姿を捉え直し、毅然として対応すべきである、と全国の大学へ発信したい、と。さらに少し加えて、宣言では戦前の大学は、学問の自由・大学の自治が奪われ侵略戦争へ加担させられた歴史の教訓にも触

れている。現在、政府による学術会議法人化強要の動きがあるが、この戦前の動きに重なって見える、と警告も。これらの主旨を盛り込んだ、新潟大学の教員・職員・学生の有志でアピールを出しました。

「学術研究および教育の最高機関」である大学は、知と知性の拠点。平和目的であるべき学術・研究・教育・医療のあり方を、思い起こさせてくれたのがこのノーベル平和賞であり、国民の先頭に立つて、平和を発信してゆくべきことをここに改めて訴えたいと思います、と結んでいます。

以上述べたように、今回のノーベル平和賞は、大きなインパクトであり、この意味を深掘りすると、大軍拡を止めるいくつもの視点があるとともに、核兵器完全廃絶への大きなエネルギーを我々ももらいました。これを機に一気に平和攻勢に転じ、大軍拡をストップ、平和の準備へ、また何よりも核兵器完全廃絶へ大きく前進しようと思います。その闘いの狼煙（のろし）ともなるものです。

（あかい じゅんじ・新潟大学名誉教授、新潟県原水協代表理事）

名前

山下舜平大（しゅんべいた）投手はオリックス・バファローズの選手で、昨年、パリーグの優勝に大きな貢献をした。「しゅんべいた」という人名を耳にしたのは、二回目だった。一度目は「俊平太」で、小中時代の友人が経済学者の「シユムペーター」にあやかっけ息子につけた名前である。シユムペーターの名前もその時までは知らなかったたので、聞いた時はびっくりした。

昆虫には「トゲトゲ」（トゲハムシ）という名前のとげのある虫がいる。ところが、その後、とげのない新種が発見され、それは「トゲナシトゲトゲ」と名づけられた。しかし、さらに新種として、お尻の部分にだけとげのある新種が発見され、それは「トゲアリトゲナシトゲトゲ」と名づけられている。まるで追いかけてつこ？をしているかのようである。

ほかに、ひげのある「コウチュウ目ヒゲヒゲ科ヒゲヒゲ亜科」に属する「ヒゲヒゲ」という昆虫もいる。

こちらも新種が発見されるたびに、「ヒゲナシヒゲヒゲ」↓「ヒゲアリヒゲナシヒゲヒゲ」と大忙しである。

（小野塚）